Ver 2.4b

千葉県支部だより

第２３　２４合併号
発行年月日　令和5年10月31日
発行人　中原秀治支部長
編集人　福嶋邦夫幹事

目次（該当目次をクリックしてください。）

１．支部だより復刊について
２．支部長挨拶
３．千葉県支部見学会について
４．支部会員より投稿
　Ⅰ.登山記　　安藤　志朗副支部長
　Ⅱ.名刺　　安藤　志朗副支部長
　Ⅲ.振り返って昭和その１　　黒澤　昌弘幹事
　Ⅳ.アマチュア無線のこと　梅沢　晋吾幹事
　Ⅴ.＜近況報告＞　今年こそコロナからの脱却を　中原　秀治支部長
５．編集後記　福嶋　邦夫幹事・編集人

１．支部だより復刊について　　福嶋　邦夫幹事・編集人

千葉県支部便り発刊に当たって従来は新聞の形で配布されていましたが、今はホームページが出来ています。予算も限られ新聞形式から今後はホームページ掲載に移行する事となりました。

千葉県支部の皆様方から記事を投稿して頂き、それを掲載するスタイルでページを作って行くイメージとなります。

従来は新聞形式で印刷発行をしていましたので、PDF 形式では物足りなさが有るかと存じますがどんな投稿でも構いませんので頂ければ掲載をしていく様にやって行きたいと思います。

皆様方の投稿をお待ちしております。支部メアド＝tdu-chiba@tdu-koyu.com

（投稿規定につきましては、別途ホームページで案内します）

２．支部長挨拶

懸案事項でありました「千葉県支部だより」を復刊できましたことをまず第一歩として、今後も千葉県支部、いや電機大学校友会全体の活動前進と捉え歩を進めたいと思います。

私たちにとりましては小さい一歩ですが、先人の築かれた実績を元に己の小ささを知り、足りないところは皆様のお力をお借りしてでも支部活動を活発化して行きたいと思っております。高校時代にアマチュア無線をやっておりましたが「当時はアンテナカプラーなるものは買えず、カット＆トライの精神」でやっておりました。支部活動とアマチュア無線は同じではありませんが「カット＆トライの精神」関西の方に言わせると「やってみなはれの精神」で、走りながら考えることにします。

「支部だより」も従来は印刷物でしたが、今回から「ホームページで購読の形」を取ります。若い方は、SNS とか電子媒体が得意ですからその波に乗り遅れないよう、昭和生まれも意地を見せたいと思います。でも、若い力は大歓迎です。　　（支部長　中原　秀治、47SU1SS853）

３．千葉県支部見学会について（2 候補で調整中）

陸上自衛隊松戸教育科連隊またはセイコーミュージアム（銀座）

日時＝令和６年１月２０日　午後 2 時頃から午後５時まで
（現状は日程だけ決定です。見学先は精査の後、決定します）

１．自衛隊松戸の場合＝再度詳細案内を提供します。この日で押さえておいてください。宜しくお願いします。（松戸・元山の教育科連隊を見学します。）
スマホかい i-Pad で説明を聞きながら、会場を回る仕組みです。
２．見学内容はこちら　時計の博物館 THE SEIKO MUSEUM GINZA セイコーミュージアム 銀座
集合などはあくまで予定。参加者には別途詳細案内を差し上げます。
03-5159-1881（見学先電話）

なお、参加者は懇親会参加を原則とします。2 日前まではキャンセルを受けますが、それ以後はキャンセル料が掛かります。

４．支部会員より投稿

Ⅰ.登山記　仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳登山記

サントリーの白洲工場に昔見学に行った事が有りました。その折に見た、甲斐駒ヶ岳の雄姿にほれ込み、次回はここから甲斐駒を目指そうと考えていましたが、時間的に一泊増えるので、甲府から弾丸コースを目指そうと、安易にバスに乗ってしまいました。
下記がその登山記です。

8 月 1 日（1 日目）
朝、我孫子市の自宅を出発し、甲府まで特急。そこから広河原まで特急バスでノンストップ。広河原から村営バスで北沢峠に到着。もう午後２時半。ここで、泊まるのも、悔しいので、登山日程を変更して最初に仙丈ヶ岳を目指すことにした。これが今後の人生に大きく寄与することになるとは人生はわからないものだ。登山届けを修正して、ポストに提出。
北沢峠（15:30）を歩き出す。大平山荘横を回り道して、暫くぶりの山の感覚を取り戻す。誰にも会わない。こんな遅い時間だと皆さんもう小屋に着いているのだろう。足は大変軽い。でも、樹林帯なので展望はきかない。沢筋である。間もなく馬の背ヒュッテの大滝の頭に分岐する沢で下る方とやっと出会う。「あと少しですよ」と言われたが、まだ１時間程度。これなら１６時半には小屋に着けるな。予定を変更して正解かな？　そこから１０分しないで馬の背ヒュッテに到着。今日はここまで。目の前に千丈が見える。奇麗な山だ。

8 月 2 日（2 日目）
朝ごはんが５時半との事で、元気に食べて、7 時過ぎに小屋を出る。後は、山頂を目指すだけ。時間的には、配分が良いのか、また、千丈小屋には水はありませんという看板まであったが、7 時４０分頃には千丈小屋に到着。水は豊富ではないか？　小屋のおやじに騙された。売らんかな主義だったのだ。気をつけよう。
仙丈ヶ岳には、午前 8 時前には着いちゃった。でも、私のスマホはつながらない。しょうがないので、近くにいた浅野さん（これが今後の人生を変える方となる）に、珈琲を沸かして提供ついでに、「スマホ貸してください」とお願いし、借りて自宅に連絡。それから二人でゆっくりコーヒータイム。北岳、白根三山、塩見岳凄い。勿論富士山も美しい姿を見せてくれている。やはり無理してきてよかった。折角、浅野さんと知り合ったのだから、これからもよろしくとの挨拶をしながら、今後の予定を聞くとこれから下山して土浦に帰るとの事。では一緒にということになりました。仙丈ヶ岳を 9 時半に出発。でも、彼からやんわり、「あなたは足が凄い、北沢峠で再会しましょうよ」、との提

案で私はまた一人で景色と甲斐駒を見ながらひたすら歩くことにした。
　もう彼とは会えないかなと、小仙丈ヶ岳、大滝の頭を通過して、北沢峠に戻った。ちょうど正午前、北沢峠に到着。早速明日の準備のため、すぐそばの、「こもれび山荘」に行き、泊まれるかの相談をすると、「スマホ充電完了ですか？　携帯バッテリー有りますか」との事。「ケーブルを忘れたので、充電できていません。貸してください」と話すと、では宿泊お断り。エーツそれは厳しいのでは！！最近の事故できちんと連絡できることが条件との事で、下山しかないと諦めて、昼飯でも食べようと、馬の背ヒュッテで購入した弁当にお湯を沸かして食べたあと、またコーヒーを作っていると、２時間半遅れで浅野さんが下りてきた。この後戸台口まで村営バスで降りて、マイカーに乗り換え、土浦に帰るとの話。先ほどのスマホの件を話すと「私が携帯充電器を貸してあげますよ」との事。早速充電を始めるが、完了まで、１時間半もかかるらしい。その前にバスが来るとアウトだと心配していたら、バスの時刻表を見てきた浅野さんが「あと３時間後の１５時でないとバスがない」と帰ってきた。それなら充分時間が有るではないか。充電もできるので、再度、「こもれび山荘」に行き、宿泊の手続きをし、コーヒータイムをゆっくり浅野さんと楽しんだ。
　充電が終わったので、携帯充電器を返し、お礼を言って、ついでに住所や携帯番号、LINE も聞いて、彼はバスの人になった。普通ならこれで完全に再会はないと考えていたが、世の中凄い。今後も人生の友として、長い付き合いやＦＸ（海外為替投資）、ＧＰＣ（東南アジアの不動産投資）、エネコ（水から燃料精製）と同じ仲間になるとは思っていなかったことが実現することになる。おかげで、私はとんでもない金持ちになりそうですね。もしも、皆さんもプチ金持ちになりたいなら、安藤に相談ください。
　さて、登山記に戻りますが、安藤は、「こもれび山荘」に宿泊手続きをして、まだ時間はたっぷりあるので、夕食まで付近の散策を決め込んだ。明日の甲斐駒ヶ岳のコースもチェックして、夕飯後には早めに布団に入り、お休み。明日に備えることにした。

8 月 3 日（３日目）
　今日は甲斐駒ヶ岳を目指すので、早め行動を考えて、朝ごはんは６時にしてもらう。今日もご飯がうまい。これなら安心して登れる。今回は天候も最高。二日とも晴れている。あり難い。
　8/1 北沢峠（15:30）・・・・・馬の背ヒュッテ１６時半 宿泊
8/2 馬の背ヒュッテ　(7:00)・・・仙丈小屋・・・千丈ヶ岳（8:00）休憩１時間半・・・小仙丈ヶ岳（10:00）休憩 20 分・・・大滝頭・・・北沢峠（11:40）　こもれび山荘泊

２日目の行程（詳細）
北沢峠（4:45）・・・長兵衛小屋（4:55）・・・仙水小屋（5:25）・・・仙水峠（6:10）休憩 10 分・・・駒津峰（8:00）休憩 15 分・・・直登巻道分岐（9:20）・・・甲斐駒ケ岳（10:10）休憩 20 分・・・駒津峰（12:05）休憩 10 分・・・双児山（13:10）休憩 10 分・・・北沢峠（14:40）

（安藤　志朗副支部長）

Ⅱ.名刺

千葉県支部の名刺シンボルはどんな意味が隠されているの？

工学博士
丹羽保次郎

Be civil to all
総ての人に礼儀正しく
Serviceable to many
多くの人に奉仕し
Familiar with few
僅かな人と親しくし
Friend to one
一人の人を親友とし
Enemy to none
一人の敵も持たない
Yasujiro Niwa

千葉県支部は設立して、本年で５４周年を迎えました。全国の支部のなかでも、トップクラスの歴史を持つ支部です。その原点が、この名刺に隠されています。

ご覧になると、丹羽保次郎工学博士・初代学長の教えなんです。

1　全ての人に礼儀正しくする
2　多くの人に奉仕する
3　僅かな人と親しくする
4　一人の人を親友とする
5　一人の敵も持たない

これを千葉県支部では、テーゼとして、役員になった折に作成して手渡ししてきました。私には到底できない事ですが、凄い内容だと考えています。この通りにできたら争いごとも無くなり、世界中が平和になるかもしれません。我が支部の６０周年までには私も、このような人間を目指して励んでいきたいと考えていますが、凡人の私には達成できるかどうかいささか不安だらけです。もしも、千葉県支部改革を前に進めたいと考えの千葉県支部会員さんがいましたら、ぜひ名乗りを上げて、役員に立候補して頂けませんか？　皆様方のご連絡をお待ちいたしております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

支部の歴史は過去の「支部だより」（ホームページに掲載）をご覧ください

Be　civil to all　Yasujiro Niwa

総ての人に礼儀正しく
Serviceable to many
多くの人に奉仕し
Familiar with few
僅かな人と奉仕し
Friend to one
一人の人を親友とし
Enemy to none
一人の敵も持たない
千葉県支部　副支部長　安藤志朗

Yasujiro Niwa

（安藤 志朗副支部長）

Ⅲ.振り返って昭和その１

2020 年からの新型コロナの蔓延、やりたいことが自由にできないもどかしさ。コロナ禍で人々の暮らしや、価値観ががらりと変わる瞬間(転換期)を今世界は目のあたりにしています。ウクライナ侵攻と本当に混沌とした世界になってきました。そんなお家籠りの時に自由なシニアの身になって、暇に任せ、時世時節に合うような何か今までの歩いてきた道をたどってみようと思いました。

コロナが蔓延していなかったら、とにかく時間をかけた今までは無理だった東海道五十三次の宿場を全部回ってみるなど、たっぷり時間を無駄に使う贅沢な旅をと夢は膨らんでいました。47 都道府県、およそ観光地とガイドに紹介されているところはほぼ足を運んだので、これからはこの時間をかける旅やまだ見ぬ摩訶不思議なものやミステリーなものに最近は一層興味が湧いてきた。もともと中学生のころから超常現象、未知なるものには興味があった。いくつか今まで尋ねた中で印象に残ったものを少しご紹介します。

面白そうなものや旅先の情報などを探すのに昔から神保町の書店巡りは好きでした。インターネットなどない時代は五感と地図読でよく旅をしていました。年齢を重ねるとともにその五感も少しずつ退化しているのは致し方ないにせよ、旅先での五感の活用でより旅からの得るものを豊かにしたものです。少し歩き疲れたらレトロな「さぼうる」で珈琲。ここには本当にさぼっているような会社員や学生がいるのですよね。でもそれが至極居心地が良いのだ。レトロなものはシニアには懐かしく若い世代には新鮮に感じられ、ただ単に外見が古く安普請的な造りというだけでなく、人々の長い暮らしの歴史の中にうずもれて隠されているものを発掘する喜びに魅力が集まりあこがれるものである。経験のない物やまだ見ぬものには一層あこがれるものである。

レトロといえば昭和レトロだ。明治はモダン、大正はロマン、時代を一言で表すとこんな言葉が似合うのだろう。平成の時代や令和はどんな言葉で表されるのだろうか。う～む平成・・。平成ジャンプ、令和新選組！　あーいかんせんまだまだ発想が貧弱だ。

古書店で探した古文書・古地図などを読み解くことはバーチャルの世界からまだ見ぬ世界へのお道引きでもあり、時間もたっぷりかかっても今は問題ありません。

ある古書店で「黒部の山賊」という伊藤正一著の本を見つけた。伊藤正一はいくつかの山小屋を経営していて、幅の広い「山の話題」が盛り込まれていて読む者をして、まるで黒部の奥地にいるような気持ちにさせてくれる小説家だった。今は廃道になっている湯俣温泉に抜ける伊藤新道を切り開いた先人だ。山好きの人には、深田久弥著の「日本百名山」とともに２大山岳本とも言えるだろう。この本を読んでから山が好きになり、いつかは黒部峡谷などの北アルプスの奥地へ行って見たいと思っていた。父の意思を継いで今は 2 人息子の兄は三俣山荘の主人、弟は雲の平山荘の主人として頑張っている。現在、この兄はこの湯俣温泉に至る幻の新道を復活しようとしているのだ。

噴湯丘

その起点となる湯俣温泉までは秘湯の温泉として入湯したことがある。その湯俣温泉の奥には源泉である噴湯丘があるのです。湯ノ花の化け物です。遠目に見ると大きなおっぱいのようにも見えます。ここだけ見るだけでも行く価値はあります。そしてこの地に降り立つと、仰ぎ見る北アルプスまで行って見たい想いが一層強くなるところでもあります。

暫くして黒部の源流を目指して北アルプス最奥に足を踏み入れたことがある。まだ体力が残っていたころの話だ。黒部には黒部の怪人・黒部の魔人・黒部の巨人という 3 大岩壁があり、黒部にけが人なしという言葉通り、滑落したら死を意味する険しいＶ字峡谷になっている。400m近い絶壁。そしてあの三俣山荘の 2F 食堂からの鷲羽岳方面のパノラマは絶景だ。絶景を見ながらコーヒーをゆっくり飲みたかったが、その日はここが宿泊地ではなかったので、さっと休憩がてらにして、先の双六小屋に進んだのは今でも残念だ。昔は小屋番の鬼さ(鬼久保善一郎)が仕留めた熊などの獣の毛皮が売店で売られていたりしていたという。その頃行って見たかった。

祖谷の小便小僧

黒部の峡谷ほどではありませんが、祖谷渓の小便小僧、200m 近い絶壁にあります。
ここなら車で行けるのです。ここもけっこう写真のアングル次第では素晴らしい所です。

座右の銘にも使われる四文字熟語といえば有言実行、初志貫徹などありますが、最近頭によぎるのは私の場合、一攫千金、生涯賃金、年金生活、平均寿命、血管年齢、少し違うか？　四文字熟語というより単なる四文字。そうそうこの「一攫千金」いい言葉ですね。胸が高まります。この一攫千金を目指して埋蔵金探しの古文書などが山ほどあります。カリブ海のような財宝探しにはほど遠いが、旅のついでに徳川埋蔵金探しなどに奔走するのも夢があっていいですね。なにせ時間がたっぷりあ

るのですから。こうした無駄な時間を過ごすことがシニアの唯一の楽しみでもあります。
　全国に埋蔵金伝説があり、関東では群馬の赤城山周辺が有名です。コロナで運動不足のため、時たま近場の低山ハイクに行きますが、ここ赤城山に至っては自然を痛めつけてはいけないことと承知のことですが、登山道周辺に必要以上にストックを突いて廻り、埋蔵金の感触をチェックしています。出てくるのはドングリと栃の実ばかりです。

　興味も趣味も年とともに変化して来ます。子供の頃の夢ややりたいことは大人になって、かなりの乖離があるようにも見えます。人間の創造性や夢は過去の経験や知識などでも変化してきます。変化しないのは女性の好みだけかもしれない。これは大脳の働きのせいだろうか。今は体力低下による、よりアクティブな経験を積むことが難しくなった。知力や魔力も入りません。長い人生楽しむには体力のみで OK です。馬鹿でも体力があれば生きていけるのです。技術書などの本は投げすてて、体力アップに精を出しましょう。そんな訳でこれからはハードな登山から低山ハイキング、海外ダイビングから近場の海辺のベンチで読書など形態を変えることなどになろうか。
　若い頃は冬スキー、夏ダイビング、春秋は旅行に登山と自然を謳歌していたのに・・。綾小路きみまろの「あれから 40 年！」の世界です。体力も気力も果ては記憶まで落ちて来てしまい、若いころの自慢話も体が動かなくなり、脳が機能しなくなり、だんだんと薄れて、自慢するものがだんだんなくなると、いよいよ病気自慢が始まってきた。シニア世代にどっぷりと浸かって、溺れてしまうのではないかと。血圧はまだ自分の身長くらいの値になっていないのですか？　尿酸値・中性脂肪はまだ基準値内なのですか？　とか言って、まだまだ若いね、一人前ではないねと若者を揶揄しながら、何の根拠のないことを持論とすることがシニアの特権です。何のしがらみもないシニアにとっては怖いものなどありません。唯一怖いものは忍び寄る病魔と年金の減額だけです。
　だんだんあまり物に興味がわかなくなってくるものです。必要以上に物を求めない生活、龍安寺の手水鉢(つくばい)の「吾れ唯だ足ることを知る」の世界です。このつくばいは好きで何度も見に行っています。若い頃先輩が退職を機に四国のお遍路行脚に出かけたという話を聞いたとき、他に面白いものが沢山あるのにと思ったものだが、実際シニアになった今、そのお遍路にも興味がわくし、ガイド地図という「四国遍路ひとり歩き同行二人」という本も実は持っているのです。

龍安寺のつくばい

　この本は一番札所霊山寺で購入しました。ここにはスタート時に揃えておきたいお遍路グッズが山ほどあり、これから回る八十八カ所に否が応でも胸が高まるわけです。コレクターには持っているだけで行った気分、まさにエアー遍路の世界です。旅には 3 つの楽しみがあるといいます。行く前の予定を立てる準備段階、実際の旅行中、そして帰ってからの写真整理・旅のパンフレットの整理など。この準備段階こそがエアー〇〇なのです。最近の私はこれが多い。エアーギターの大会なんてものもあった。空想に生きることはいと楽しい。
　その後四国には何回か尋ねてはいますが、今となっては、ガイド本は少し古びてきて、お遍路完

歩には程遠く、現在まで五つの寺社完歩というありさまです。

五島列島の王位石

揺るぎ石などという不思議と落ちない石が各地に点在しています、海外ではノルウエーのトロルの舌などとてつもないスケールの物もありますが、超常現象ならず都市伝説ならず、自然現象の稀有な産物ではあるが、身近な所では筑波山の弁慶の七戻りという岩もある。木曽駒ケ岳を目指していた時、千畳敷カールを前にして左手には宝剣岳のミニトロルの舌が見えます。また五島列島の野崎島「沖の神島神社」の社殿の奥には古来よりの王位石(おえいし)があり、これは本当に神が作ったといっても不思議ではないようなもので、学生の時見に行ったまさに日本版ストーンヘンジだ。

▲圧倒的な存在感

最近世界文化遺産に認定された青森の遺跡群の中に、亀ヶ岡遺跡の遮光器土偶があります。あのストーブ列車でも有名な五能線の木造駅にそのお姿が圧倒的存在感で鎮座しています。よく先人たちはすごいものをというが、これは最近の人たちで造ったものであり、実際の遺跡よりもはるかに壮大で素晴らしく感じるほどだ。

（黒澤　昌弘幹事）

Ⅳ.アマチュア無線のこと

始めまして、梅沢晋吾と申します。ことしから千葉県支部の幹事をしております。

僕は今年還暦になりましたが、アマチュア無線に関しては運用を始めてからまだ5年しか経っていません。こんな初心者がどうしてアマチュア無線を始めることになったかをお話ししたいと思います。

仕事で測定器の輸入販売をしていますが、取引先のチェコの会社でエンジニアをしている友人から、アマチュア無線は面白いよと勧められたのが2010年でした。そうなのかと思ってすぐにアマチュア無線従事者免許を取得しました。この時点では従事者免許を持っているだけでした。しばらくすると、彼の無線仲間で同じくチェコ人のオルダさんという方が、マグネティック・ループ・アンテナ（MLA）を作ったので、日本のハム仲間に伝えてほしい、評価を希望しているということ

▽チェコ製マグネティック・ループ・アンテナ

：MLA-M（3.5MHz-28MHz，10W）

で、サンプル品１台がチェコから送られてきました。

知識こそダイポールやグランドプレーンなどのアンテナは知っていましたが、実際に未だ使ったことが無く、ましてや磁界型の MLA については全くの無知でした。そこでアマチュア無線を扱っている出版社に連絡して、こういうわけでチェコから MLA のサンプル品が届いたのだけれど、日本でどなたか評価してもらえませんか？と話したところ、「ちょうど磁界型アンテナを研究するグループが活動を開始したので、評価してもらえるよ、是非持ってきて下さい」、という事になりました。その翌々月、雑誌にオルダさん作の MLA の記事が始めて掲載されたのでした。そして、その後もチェコと日本の双方でマグネチック・ループ・アンテナの研究が続いていました。

一方の僕は、この時期チェコの会社と取引はあるもののアマチュア無線や MLA とは離れていました。ようやく 2016 年になって、アマチュア無線の展示会が東京で開催された時に、チェコのオルダさんのお孫さん（当時高校生）が、展示会場でチェコ製 MLA の説明にやってきました。僕も会場でこのお孫さん、ロバートさんと面会し、同時に日本の MLA 研究会のメンバーの皆さんとも出版社を通じて会うことができました。すぐに MLA 研究会に入会してアマチュア無線や磁界型アンテナについて積極的に勉強するようになりました。

この展示会でチェコ製 MLA が展示、説明されましたが、日本で販売するルートが無かったので弊社で販路を設けました。（展示会の後、僕はオルダさんの会社を訪問し、ビジネスが始まりました。MLA の特徴としては、狭い場所でも使えるので、集合住宅のベランダからでも電波の受信・送信が可能です。八木アンテナや他のアンテナに比べて知名度があまりないので、多くの方に MLA を知ってもらう活動をしています。）

こうした中、2019 年 9 月に僕を含めて MLA 研究会メンバー10 名が、日本からチェコのオルダさんの会社(B Plus TV 社)まで行って表敬訪問し、オストラバ工科大学（Technical University of Ostrava）にて無線工学の研究者との交流会に参加しました。2 日間の短い訪問でしたが、アマチュア無線やアンテナの技術交流だけではなく、チェコ東部のオストラバの歴史や産業の変遷について知ることができた貴重な体験となりました。

僕は、2019 年 1 月にアマチュア無線局を開設し、コールサイン(JJ1QBB)を取得し、無線機とアンテナ（MLA）を購入して運用をはじめました。住んでいる松戸市のアマチュア無線クラブに入会しました。まだまだ交信することにも慣れていませんでしたから、地元のクラブメンバーの方々から機械の設定方法を教わったり、交信の要領を教わったりして助けてもらいました。また実際に野外で運用をしたり、ハムコンテストに参加したりなどしながら、少しづつ経験を積んでいきました。今年 2023 年は、松戸市が誕生して 80 周年を迎えたという記念局、松戸市制 80 周年記念局(8N1MTD)もこのクラブで運用しているので、参加して交信の習熟につながりました。また、MLA と 20W 出力の無線機を使ってデジタル通信方式の FT8 で海外の局とも多数交信ができたことは、とても達成感がありました。

現在、アマチュア無線人口は減少しています。日本全国に 36 万 4 千人位まで減ってきていると聞いています。まさに携帯電話やインターネット時代ですから、電波伝搬が安定しないアマチュア無線の交信と比較すれば、その利用者人口が少なくなるのも当然かもしれません。それでも手作業など自分で工夫したり、理解したりまた考えたり、試行錯誤することは、決して侮れることではないと思います。まだまだ、初心者のアマチュア無線家ですが、これからも無線やアンテナのことについて勉強していきたいと思います。（特にマイクロ波のことには興味を持ち始めたところなので、自分も一緒に進化しようと考えているところです。）電波を通してお会いした時は、どうぞよろしくお願いいたします。

松戸市在住　梅沢晋吾（1991 年 3 月　電機学校　電子工学科卒）

Ｖ. コロナからの脱却めざし九州へ

２０２３年２月３日、九州・熊本に帰省した。新幹線という乗り物が手軽だが、今や飛行時の方がリーズナブルと言う事で熊本行きの ANA ６４１便（羽田０８：１５発）に乗り込む。

九州新幹線

新型コロナは５月から感染法上（平成 10 年成立）第５類に移行するのでいくらか規制が緩やかになるでしょうが、行くに当たっては自費で検査を受けました。

熊本は「熊本地震」からの復興途上にあり、熊本城もまだ崩れた石垣がいたるところに残っている(写真右)。熊本では昼と夜に分けて人と会う予定だったので、早朝の便を選択し宿泊も取っていた。しかし、急に夜がキャンセルになり、早くきすぎた感もした。

いつも現地ではレンタカーを使っていたが、歳だと言う事で「公共交通機関と友人の自家用車」を主に利用することにした。熊本に一泊したのち、翌日バスで実家に向かうことにしたが、地方は公共交通機関の便がすこぶる悪い。大学に出てきた時は、東京からは寝台車、熊本からはバスも豊富にあった。よく、地方交通線廃止のニュースを目にするが、仕方のないことかと納得する。

福岡から伊丹はプロペラ機で移動（伊丹空港でタラップを降りる乗客

実家にいた時間は、卒業した小学校訪問や小

学校の同級生、また高校のクラブ員らと会い、旧交を温めた。実家での予定を終え、東京に戻ることにして、新玉名から九州新幹線に乗り、博多へと向かった。

福岡で一泊し、翌日博多駅から福岡空港に向かう。福岡空港は市街地に近く、地下鉄のアクセスも良い。空港ビルも建て替えられたのか広く感じた。当然幹線の飛行ルートだからジェット機と思っていたが福岡から伊丹にはプロペラ機でのフライト。久々にバスに乗り駐機しているボンバルディアＤＨＣ－８に乗り込む、総座席数は７４席。低騒音・低振動タイプとはいえ最近のジェット機の方が静かでかつ低振動である。比較的低い高度で飛ぶのか徳島空港、関空などもよく見えた。しかし、滑走路で舗装のつなぎ目を通る時、ゴツゴツと言う。当然、伊丹空港でも通路（なんと呼ぶのかわからない）横づけとならず小さいタラップを使い、誘導路を歩いて空港ビルへ。フランクフルト空港は空港ビルの中をゴルフの時に使うカートが走っていたが日本の空港ビルでそれを見たことはない。モノレール乗り場へ延々とひたむきに歩く。国内の空港ビルは、日本語が通じることとトイレが多く、無料なことは助かる。

伊丹空港からモノレールで門真市→淀屋橋→肥後橋と移動、大阪で１泊し、翌日の羽田行きでやっと東京に帰った。今年７４歳になり、そう簡単に帰省もできなくなりそうと思い立っての旅行だった。早く感染症の心配もせず自由に行き来でき、校友会の行事も活発に行えるようにならないかと、東京に帰って思った。

（中原　秀治支部長）

５．編集後記　福嶋　邦夫

千葉県支部だよりの復刊として第１回目の発刊が皆様方のご協力により刊行する事となりました。有難う御座いました。初回なので工夫が足りない事等認識はしております。

長編の投稿も頂いておりますので分割してシリーズ化をして掲載させて頂く等を考えております。皆様方の力作や短編でも構いませんのでどしどし投稿して頂ければと思います。

皆様方の忌憚の無いご意見を頂ければ幸いに存じます。継続的に発刊を続けるには皆様方の投稿が無くては継続も危ぶまれます。今後とも一層のご協力とご意見を賜りますようお願い致します。